

令和7年度第2回徳島市立考古資料館協議会抄録

- I 日 時 令和8年3月25日(水) 10:20～11:50
- II 場 所 徳島市立考古資料館 研修室
- III 出席者 協議会 菅原会長、須藤副会長、板東委員、山口委員、湯浅委員
教育委員会 岡田課長、北村課長補佐、平山管理係長、宮城文化財係長、
吉岡主査、島本主事
考古資料館 三輪館長、倉佐事務長、村田主任学芸員、大栗学芸員

IV 内 容

1 市民憲章唱和

2 自己紹介

3 あいさつ(岡田課長・菅原会長)

4 議題

- (1) 令和7年度 徳島市立考古資料館主要事業概要報告(資料1)
—令和7年4月1日から令和8年2月28日まで—
- (2) 令和8年度 徳島市立考古資料館事業計画(資料2)
- (3) その他

V 主なご意見

令和7年度徳島市立考古資料館主要事業概要報告等に関して、各委員より様々なご意見をいただきました。主な内容は次のようなものでした。

(◇=委員のご意見 ◎=考古資料館・社会教育課の回答)

- ◇ 昨年、『阿波のまほろば』を創り支えた郡領氏族～粟凡直氏の世界～と題し、なぜ「国衙」が板野ではなくこの石井町と国府町の境に設置されて、その結果、国分僧寺、尼寺が創建されたのかをテーマに石井町で展示公開、講演を行いました。県内外から200人ほどが集まり、この地域の特性を共有しました。その延長で、先日、古くからある有志の会である「石井町ふる里を学ぶ会」の月例の会で、フィールドワークとして阿波国分尼寺跡、観音寺木簡出土地、国府変電所北に在る1342年紀年名を持つ板碑を廻りました。その後、考古資料館で冬季企画展「勾玉からみた弥生時代・古墳時代」を見学、矢野遺跡で作られた蛇紋製勾玉出土の意味などを学習しました。

考古資料館は、徳島県埋文センター所蔵の縄文土器群、矢野銅鐸、観音寺木簡、といった縄文弥生古代と三つの時代にわたる国指定の重要文化財が出土したこの地にある施設として、とても意味のある館だと思います。また、ただいま金堂を中心に整備を進めている国分尼寺の整備が終われば、観光施設としての活用も期待できます。近在にある考古資料館も、文化財の専門施設として学術的な情報の発信を期待しています。今回の会でもそういった点にも鑑み、協議いただければと思います。

- ◇ 夏季企画展「戦争の記憶 - 考古資料が語る戦争 -」についてですが、考古資料館では

これまで取り扱っていないテーマでしたので、非常に興味深く観させていただきました。近代史ということで、展示もこれまでにないコンセプトが示されており、その点でも面白く感じました。

企画展のアンケートについてですが、前回の協議会でアンケート回答者の世代を細かく分けるとのことでしたので、その点に関し意見を述べさせていただきます。全体的には「大変良い」と高評価なのですが、少数「まあまあ良い」「まあまあ悪い」が散見され、そういったややマイナス寄りの評価が高齢者に集中していました。考古資料館を訪れる高齢の来館者は、リピーターの方が高い傾向が明確ですので、リピーターの方の中で物足りない感想を持たれたのかなと考えます。個々の感じ方ですので一概には括れないとは思いますが、判り易い全体の展示と、リピーターの方が強く印象を受ける深みのある展示が必要だと思います。そのためには、これまでの会議でも良く提言されている日頃の研究活動の積み重ねが重要だと思います。

- ◇ アンケート集計方法についてですが、世代を細かく分けるのは良いとしても、未就学児の枠まで設ける必要があるのかなと思ました。特に今回のような戦争をテーマにした展示の場合、未就学児の意見に今後の展示に生かせる意味や意義を見出すのは難しいように思います。対象をもう少しシビアに選別してもよいのではないのでしょうか。
- ◇ 企画展来館者数について、コロナ禍などの要因もあるでしょうが、過去 5 年間といった長いスパンで見た場合、来館者全体の増減、企画のテーマによる増減など、どのような傾向が読み取れますか。
- ◎ やはりコロナ禍の影響で一度リセットされた感があります、感染症で大きく減らした後、ここ 3 年ほどで大きく数を戻し、コロナ禍以前の状態に戻りつつあるのが現状です。ただ、一度減少した反動なのか、企画展、講座、体験学習など、押しなべて増加の傾向を示しており、企画の内容による来館者数の差異を読み取ることは出来ていません。

ただ、今年度に関しては、夏季企画展は従来に来館者に加え、明らかに 新規と思われる方々にも多く観覧いただいた印象を受けます。特別企画展「阿波の板碑 - 中世の祈りのカタチ -」については、地元の方が関心を持って見に来てくれたように感じました。冬季企画展ですが、当館の場合来館者のボリュームゾーンは、従来は 60 代以上なのですが、今回の冬季企画展に関しては 40 代から 60 代にかけて多く来館される傾向がありました。先ほどの委員の指摘にありましたアンケートについては、どこまで聞き取る項目を増やすかは決めかねてはいるのですが、新年度はこれまでとは異なるスタイルで行う予定です。
- ◇ 新規層の集客、年齢層の偏りに関しては今後の課題なのかなと感じます。もちろんこの種の課題はどこの施設も同様に抱えているとは思いますが、先の委員の意見にもありましたように、夏季企画展のようなこれまでにない新しい取り組みが新規層の獲得にも効果的であると感じます。

実績報告の資料にある学校教育支援「体験学習の受入れ」についてですが 今年度 4 件ほど受け入れていますが、具体的にどのような内容か教えてください。

- ◎ 勾玉づくり、火おこし体験、展示解説、矢野古墳見学などです。
- ◇ そういった学校での体験学習参加した児童、生徒がのちに個人で展示見学に來たり、自由研究の課題として考古資料館を利用したりすることはありましたか。
- ◎ 体験学習やとくに出前授業体験後には、きまって幾人かは「楽しかったから」と個人や友達連れ、家族連れで來館していただいています。
- ◇ 教育支援と展示活動が繋がっていて、非常に良い循環が生まれているのではないのでしょうか。体験学習のような教育支援を「教育効果」という面だけで評価するのは正しくはないかもしれませんが、それでも次世代につながる事業として今後も継続していただければと思います。
- ◇ 会議資料内の「事業終了報告」についてですが、詳細な分析がされていて読み応えがあります。また考古資料館講座のテーマごとの入館者数増減なども判り易くまとめられていて、参加者のニーズがどこにあるのかよくわかる報告だと思えます。

夏季企画展については、先の委員の発言にあるように、限られた予算の中で考古資料館では初出のテーマに取り組み、創意工夫がされた展示が行われていたと感じます。特に博物館の展示で難しいのは「匂い」や「音」の再現ですが、戦時中の「爆撃機のエンジン音」の音声データをデジタル機器使って試聴できるようにするなど、大変良くできた構成になっていたと感じました。

特別企画展については、担当学芸員から展示についての話を聞きました。現地に今も所在する板碑に関しては、所在地の確認から始まり、現地に赴き写真撮影や寸法、線刻等の確認などの地道な調査の実施、また先人の調査研究を参考にするための研究会参加も積極的に行うなど、展示構成に必要な基礎の調査活動が十分になされており、学芸員のスキル向上的にも良い企画展であったと思います。あと個人的に思うのは、小規模施設の小回りの良さを生かして、板碑に触れたり、持ち上げられたり出来ればなお良かったのではないのでしょうか
- ◇ 他団体との連携、地域の連携についてですが、私が地域団体の世話役の会議等で考古資料館の話をしていても依然知らない、認知していないという方が多数いらっしゃいます。また、そういった方にイベントのチラシや広報をみせて來館を促しても、世話役には高齢の方が多く、公共交通機関での來館が不便な考古資料館は敬遠されがちです。バスの助成などを使って、地域団体の会議の後などに集団で考古資料館を見学、体験学習等ができる機会をつくっていただければ、良い広報の機会となり、他団体との連携にもある種の弾みとなるのではないのでしょうか。
- ◇ 企画展の來館者についてですが、県外からの來館者の状況はいかがでしょうか。
- ◎ 夏季企画展についてですが、これまで徳島の戦争関連史跡は板東俘虜収容所が突出し

て有名で、他の史跡はほぼ紹介されていなかったのが現状でした。そのため、今回の企画展を知った戦跡に関心のある県外の方々が見に来られたようです。また、普段見られないような戦跡遺構の写真の載ったパンフレットも好評でした。

- ◎ 特別企画展については、板碑の展示ということで、板碑が集中する関東の施設にポスター・チラシを送り広報したほか、全国規模の板碑関連の研究会で知り合った研究者の方々に企画展の案内等をいたしました。一般の県外客がどのくらい来館されたかは把握していませんが、県外の研究者の方には結構な人数の方に見に来ていただきました。
- ◇ 体験学習等も大切ではありますが、そこでとどまると地域限定の小規模館となってしまいうように感じられます。考古資料館は徳島市の考古の専門施設ですので、徳島らしい企画展の開催、充実した情報の発信等を行い、関東などの遠方は難しいとしても四国や近隣の他府県から来ていただけるような魅力ある施設として存在を示していただきたいと思えます。

冬季企画展についてですが、県内の遺跡出土の勾玉が展示されていてそれはそれで面白い展示だとは思いましたが、県外の博物館も同時期に玉関連の展示を行っていて、ここでは近畿の著名遺跡から出土の目玉資料を借用展示していました。そういった関心度の高い資料が展示されていると自然と足が向くかと思えます。以前の考古資料館では、そういった県外の重要資料も多く展示されていて、地方にいても中央の遺跡資料を見ることができるなど魅力的な展示構成になっていたと思えます。予算などいろいろと制約はあるとは思いますが、四国内だけでも精査選別して借用し、県内資料との比較として並べていただければ、新規層や県外客の呼び込みにもつながるのではないのでしょうか。
- ◇ 県外向けの広報についてですが、旅行情報誌などへの掲載等は考えていますか。
- ◎ 旅行情報誌 1 件には阿波史跡公園の括りで掲載されています。またウェブメディアですが、博物館特集ページで取り上げていただいています。ほか地元の観光案内ボランティア有志で行っている文化財巡りコースの一環として考古資料館見学も含まれています。
- ◇ いろいろな情報媒体を利用して広報していただければと思います。7 月に学芸主任がシルバー大学の連携講座で講演されるそうですが、その講座には 200 人近くの参加が見込まれるので、その場で広報をうまく行えば集客に寄与するのではないのでしょうか。
- ◎ シルバー大学の連携講座に前回参加させていただいたときは、パンフレットなど広報物を持っていくことなども考えつかず、広報できずじまいでしたが、今後はそういった機会を逃すことがないように気を付けたいと思えます。
- ◇ 「歴史が薫る徳島市の風景」の写真の募集についてですが、私は大変有意義な活動だと思っています。有名な史跡などでしたら、これまでに数多くの写真や実測図等があり、災害などが起きても修復は比較的容易であったりします。ですが、道脇にある見過ごされがちな文化財の場合、資料が少ないため災害を受けた時の復旧への対応が難しく、復

旧の遅延や場合によっては不可能な事もあるようです。日頃から文化財の風景写真データを蓄積、アーカイブ化することで、災害に備えることにもなります。また、最近では写真データから3D図作成もでき、それらを利用した様々な活用方法も考えられますので、是非これからも進めていただきたいと思います。

- ◎ 今年度は80数点の応募があったのですが、公開展示が遅れがちでそこは反省点となっています。次年度以降は投稿していただいたモチベーションを損ねることなく随時紹介、活用していきたいと思えます
- ◇ 最近の写真データだとGPSデータも埋め込まれていることが多いので文化財MAPとしての利用もあると考えますので活用の幅を考えていただければと思います。
- ◇ 以前講座参加者の方から聞いた意見なのですが、考古資料館とほかの文化施設の間で講座の開催日時が被ってしまって、どちらか一方しか聴講できず残念であったそうで、せめて考古関連の施設間ではそういった開催日程の調整はできないものかとの意見でした。講座の企画は早くから動きますし、調整も多く一旦決まってしまうと先方の都合もあって動かすのは難しいとは思えます。共同企画の連携講座でもなければ完全に調整することは無理だとも思いますが、企画段階では融通が利くものに関してはお互いにある程度の柔軟性を持って対応できれば、互いにメリットがあるのではと思います。
- ◇ 魅力的な企画展と講座の充実が考古資料館の一番大切なコアな部分だと思います。現状は、体験学習関連に学芸員が力を取られて息切れしつつあるようにも感じます。あまり体験学習にウェイトを取られるとマンパワーの関係で本来の業務である展示関連がどうしても弱くなりがちなのは否めないかと思えます。市教委はどう云った位置づけで考古資料館をとらえていますか。
- ◎ 徳島市の文化財部門の啓発施設として、最前線で市民への普及啓発を行っていただくようお願いしています。
- ◇ 埋文センターなどでも普及啓発には力を入れ、専門知識を平易な形で紹介するよう努めていますが、やはり本質は調査研究でその芯の部分はおざなりには出来ないポイントだと思います。現況あまりに事業数が多すぎて学芸員に負担がかかりすぎていると思えますので、次回の指定管理の選定時にはその点を考えて要項を整えていただければと思います。専門性をより高めることが、将来的には考古資料館の評価を高めることになると思います。
- ◇ 考古資料館には、古代徳島の中心であった気延山のふもとにあるという施設の意味を踏まえて、これまでの調査研究に裏付けされた正しい情報を発信、普及啓発していただきたいと思います。情報発信を地道に行い続ければ、遠方からでも来館者はあると思います。

- ◎ 確かな情報発信を行うことで県外からの来館も望めるとのことですが、具体的にはどのような手段がありますか。
- ◇ 石井町で講演を行った時にはチラシ等は配布せず、ネットを使った広報のみですが、関東ほか遠方からも参加していただきました。もちろん中身も大切ですが、情報発信の手段や送り先も選ぶ必要があると考えます。以前気延山の国指定に係る調査について話していたら、手弁当でも参加したいと言った県外の人が複数いました。情報の発信先にコアな層を狙うほか、持続的に情報発信を行うことで、より効果を得ることもあるように思います
- ◇ 考古資料館の企画展はこれまで夏秋冬と 3 回とも別々のテーマで展示を行っていましたが、令和 8 年度は 3 回とも徳島の古墳をテーマとした展示を予定していると伺いました。この新しい試みが吉凶どちらに転ぶかはわかりませんが、大変面白い試みだと思えます。
- ◇ 令和 8 年度も継続して巽山古墳の調査研究活動に取り組むようですが、令和 8 年度の企画展では巽山古墳の資料も展示されるのでしょうか？
- ◎ 巽山古墳の資料の多くは東京国立博物館が所蔵していて、当初は借用展示を計画していました。しかし、近年の物価高騰、美術品輸送専門の運搬業者の再編などの煽りを受け、輸送費が以前より大幅に高騰しているため、今回の予算内では借用は難しく、残念ながら断念しました。

もし令和 9 年度以降の指定管理を受託する事が出来るとしたら、令和 10 年に迎える開館 30 周年を機に借用展示できればと考えています。東京国立博物館では、輸送費を東京国立博物館が負担して所蔵資料を貸し出す事業があります。審査が厳しいので、それありきで事業を進めるのはリスクが大きいです。これまでに審査に通った他館の企画を見ると周年を記念した事業が多く、考古資料館でもその点で利するのではと思っています。
- ◇ 先に委員の意見にありました、施設間の講座の重複についてはずいぶんと以前から問題視されているのですが、講師の都合や派遣依頼先との調整などのさまざまな段取りが必要なため、それに加えて他館との調整まではとても手が回らないのが実際なところではあります。ただ、講演のスケジュールがどこも 9~10 月、2~3 月あたりに集中しがちなため、このサイクルから外れた形でスケジュールを組むというのも重複を解消する一つの考えではあると思います。次期指定管理に向けて、事業提案に含めてはいかがでしょうか。
- ◇ 講演スケジュールの重複ですが、施設間で互いに切磋する面もあり、より良い講演が行われるのならマイナスばかりではないようにも思います。
- ◎ 委員の発言に出た企画のサイクルについてですが、先に話しました美術品専門の運搬

業者は徳島では1社1チームだけで、特別企画展が行われる9～10月は他の博物館や美術館などの施設から引く手数多の状態です。指定管理の事業費のうち、現在想定している予算では他館と競り合っても勝てそうにないのが現状のため、繁忙期の秋をさけて、ほかの季節に特別企画展をずらすなど、開催スケジュールを柔軟に考えてもよいのでは思っています。現在の指定管理受託時に提出した事業計画書では秋に特別企画展を開催するとしたのですが、今回は特別企画展の開催時期は明示しないでおこうかと考えています。

- ◇ 私も年間を通した統一テーマの企画展というのはとても面白い試みだと思います。また、考古資料館講座も企画展と連動して古墳をテーマとした全8回の講座で徳島市、鳴門市、阿南市など各自治体の調査担当者を招いて開講するとのこと、これも調査や保全を実際に担った方の話を聞けると思うので大変良いことだと思います。一点注文させていただければ、各自治体所在古墳の報告だけにとどまらず、その古墳と他地域、近畿との関連など全体的な関係性を含めた考察を依頼し、その旨を表題に掲げていただければ、その自治体の古墳に関心興味のある人だけでなく、より多くの人々の関心を惹くのではないのでしょうか。また、啓発資料の発刊について、徳島の古墳についてまとめた印刷物の発行ということですが、収録する古墳数や具体的なページ数などはどのように考えていますか。

周年事業については、いろいろとお考えがあるとは思いますが、シンポジウムの開催など、研究者同士の論じる場などを設けていただければ新たな来館者層の呼び込みにつながるのではないのでしょうか。

- ◎ 印刷物に掲載する古墳の数についてですが、古墳群として1つにまとめたものや、古墳群でも個性的な要素を持つものなどは〇〇1号墳、2号墳といったふうに個別にカウントしていて、現在110基ほどを取り上げる予定となっています。

ページ数についてはおおむね100ページほどになりそうですが、今後編集を進めるうちに、ほかにも取り上げたほうが良い古墳も出てくると思われるので数ページ増はありそうです。

- ◇ 非常に力が入った印刷物になりそうで、期待が持てます。またこの図録が徳島の古墳集として全国的に徳島の古墳を広く知らしめる契機になればと思います。

- ◎ 今年度の特別企画展の図録ですが、我々が当初予想した以上の販売数となりました。購買層もプロパー以外に地元の方が多く、やはり関心のあるものは手にとって買っただけなのだなど実感しました。次年度の企画展も地元の古墳紹介ですので、そういった方々に訴求できればと考えています。企画展を見た方に図録を買っていただけるような相乗効果を期待しています。

また、広報についてですが全国的に古墳の啓発活動を行っている「古墳にコーフン協会」に連絡をして、次回企画展の広報の協力をお願いできればとも思っています。徳島の古墳の情報はインターネット上でも限られているので、この企画で関心を持ってもらえればと思うのと、博物館の新しい役割として「観光」にどの程度寄与できるのか、ア

ンケート等の分析で測ることができるのではと思っています。

- ◇ 一年通して行う企画というのは、なかなか大変でリスクもあるとは思いますが、これまでのアラカルト企画のほかに一年の通し企画も選択肢の一つにできるのなら、今後の企画構成に幅をもたせる良い試金石になるのではないのでしょうか。ただ、広報に関しては一度だけではなく継続して行うことが大切で、「古墳にコーフン協会」等に PR をお願いするのは良い考えだと思います。近畿からのツアー団体も期待でき、口コミ等で広がってくれば経済的でもあると考えます。新聞などのマスコミは企画に対し一度は取材してくれますが、マスコミ側が情報に鮮度が無いと感じたら一度キリになることがあります。夏秋冬で古墳時代前期、中期、後期で替わる展示であることのアピールのほか、新聞紙上で帯として継続して取り上げてもらうなどの営業活動も必要だと思います。また、講座の内容も先の委員の意見にあったように、前半 45 分は自治体所在古墳について、後半 45 分はコラム的なものや他地域と絡めた包括的な考えを述べるなど、講師に注文を付ける必要があるようにも感じます。地域の古墳だけだと、どうしても講座参加者層が各地域に特化してしまい、地元以外に目を向けずじまいで終わるかもしれません。それよりも、他地域との関連性を持たせることで、徳島の古墳の全容が学べる連続講座として全 8 回皆勤するモチベーションになるのではないのでしょうか。図録も 100 ページ同じ論調、スタイルで通すより、途中でコラム的な読み物を挟み込むことで、読者をひきつけることができるように感じます。
- ◇ 考古資料館講座についてですが、他の委員の意見にあったように自治体職員の古墳の事例報告だけでは単調になりがちのため、その地域の特徴、例えば石室の形式がどこ共通してその系譜がどこあるのかなど、幅と広がりを持たせた講座になるよう、考古資料館側で調整していただければと思います。

以 上